

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第9回実務委員会
議事要旨

1. 日時 平成20年11月5日(水) 13:30~16:30
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 柴田委員, 関根委員, 三浦委員, 吉山委員, 徳重委員, 相澤委員, 吉岡委員, 田中委員

4. 会議の概要

(1) 第8回「病院の言葉」委員会実務委員会の記録の確認

- ・ 第8回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。

(2) 「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」(中間報告)に対する意見公募の状況

- ・ 10月31日までに寄せられた意見について、状況が報告され、対応を検討した。主に、次の三つの言葉に対する意見について、当面の対応を決定した。

「介護老人保健施設」

表形式で示した介護施設の比較について、誤っているとの指摘があった。これについて、ホームページ上の該当箇所に注を付け、誤っていることと、最終報告で改善することを明示する。

「糖尿病」

1型糖尿病と2型糖尿病の別について言及すべきであるとの指摘があった。これについて、最終報告では、1型と2型の区別があることを、[ここに注意]の項目などに記述する。その具体的記述方法は、今後検討する。

「浸潤」

がん以外にも「浸潤」は用いられるとの指摘があった。これについて、最終報告では、この提案ががんにおける「浸潤」であることを明示する。その具体的記述方法は、今後検討する。

(3) 最終報告と手引の編集について

- ・ 最終報告書を作成するにあたり、中間報告書からどのように修正するかについては、中間報告に対する意見公募の状況について討議した論点に従い、今後、具体的な修正案を作成していくことにした。
- ・ 手引は患者にも使えるものにしてほしいという意見も多かった。しかし、医療者向けと患者向けとは本来違うものであるため、今回は、医療者向けの手引を作ることに徹したい。
- ・ 手引に掲載するコラムの原稿例を検討し、手引全体の中での位置付けや、その位置付けに応じた表題や内容について、具体的に検討した。
- ・ 手引に掲載する挿絵について、挿入する箇所の候補のリストをもとに、その役割について、検討した。

- ・ 報告書にあるもので、手引で削除する箇所の候補が提案され、その適否について検討した。

5. 討議における主な意見

①『病院の言葉』を分かりやすくする提案（中間報告）に対する意見公募の状況

◇「介護老人保健施設」について

- ・ 介護施設の比較表の中にある「介護療養型医療施設」についての記述の誤りについては、誤りであることを現段階でホームページに記載し、記述の改善については、最終報告できちんと対応するのがよい。

◇「糖尿病」について

- ・ 寄せられた意見は、1型糖尿病に全く触れていない点を問題にするものである。1型糖尿病の存在を明記した上で、これこれの記述は2型糖尿病についてのものだと記すことが考えられる。
- ・ 1型糖尿病の場合と2型糖尿病の場合とで、非医療者への説明の仕方が異なることに注意すべきであるというメッセージを発することは重要であろう。
- ・ [まずこれだけは] [少し詳しく] [時間をかけてじっくりと] の記述は変えずに、他の部分で、1型糖尿病と2型糖尿病の区別に触れるという方法も考えられる。

◇「浸潤」について

- ・ がんに限定して、分かりやすく説明する方法を提案するという委員会の合意はあったが、がん以外にも使われるため、今後も同じような意見は来続けるだろう。がんにおける浸潤を説明しているということを、補足した方がよい。

◇寄せられた意見とそれへの対応の公表方法について

- ・ 寄せられた意見とそれへの対応を公表することが考えられる。最終報告書には入れないまでも、ホームページなどに掲載し、御礼を述べるなどが考えられる。
- ・ 生の意見を個別に載せるのではなく、意見をタイプ別にまとめ、それぞれへの対応を示すようにしてはどうか。ホームページだけでなく、最終報告書に掲載してもよいのではないか。
- ・ 最終報告書に掲載する場合、個別の意見をそのまま載せるのではなく、どのような反応があったかをレポート形式で示し、まとめとして今後の医療者・言語研究者の取り組みの方向性を簡潔に示すのがよい。

②最終報告と手引の編集について

◇最終報告書で、中間報告書から修正する点

- ・ 「糖尿病」など、具体的な修正点が指摘された言葉については、指摘に沿って、中間報告の記述でよいかどうかを検証する必要がある。

- ・今後、意見公募の締め切りにあわせて、患者会などから組織的な意見が寄せられる可能性もある。それを想定して、最終報告でどう対応するのか、考えておくことが望ましい。

◇手引の対象について

- ・手引は医療者を対象に想定していたが、寄せられた意見では、患者向けに対する要求もある。患者が読んでも十分理解できるものであるので、患者向けに活用できるものを考えてもよいのではないか。
- ・ガイドラインは医師用と患者用は違うものが用意されており、両方をきちんと区別して作ることを考えてもよいのではないか。
- ・医療者向けという基調は変えずに、今回は医療者向けの手引を作ることに徹したい。

◇手引に掲載するコラムについて

- ・「MRSA」についてのコラムは、発症の仕組みを書くことも大事だが、こうしたアルファベット略語を、医療者側がなぜ使わなければならないのかという観点でも書いてほしい。
- ・コミュニケーションについてのコラムは、この手引の中での趣旨が明確に伝わるように、タイトルを改めた方がよい。また、医療者向けの手引という性格から、医療者の参考になる情報を抽出してまとめ直すことも考えられる。

◇手引に掲載する挿絵について

- ・挿絵を医療者自身が使うことを想定すると、コピーして患者に渡しながら説明できると使いやすい。患者が理解できるような、簡略化した図であることが望ましい。
- ・挿絵は、医療者がこんなに簡単にしているのかと思うぐらい簡単でよい。患者に渡して説明するとき、医療者が説明しながらそこに必要なことを書き込んでいく、ということ想定して作るのがよい。
- ・言葉の理解を助ける実用的な挿絵のほかに、親しみを持たせるための挿絵を考えてもよいのではないか。

◇中間報告書にあるもので手引から削る部分について

- ・「検討の経過」の章は、手引では削っても良いのではないか。
- ・手引が単なるマニュアルのように取られたり、もっと多くの語について作ってほしいと要求されるだけで終わらないためにも、「検討の経過」に当たる章は、手引でも必要である。簡潔にまとめ直して手引に盛り込みたい。手引は、「これを使えばよい」というものではなく、考え方の手順を示したものであることを示すためにも、「検討の経過」は必要である。
- ・言葉をどうやって選んだのか、どういう手順で検討をしたのかという質問は多い。「検討の経過」は、提案の根拠として示す必要がある。

以上